



定期試験も終わり、学生は春休みに入ったものの、まだまだ寒い日が続いています。法学類月報第 27 号では、大貝葵先生のご紹介、在外研究中の東川先生からいただいた現地レポート、4 年生の就職活動体験記をお届けします。



## ◆連載◆ 法学類の先生 第 24 回 大貝葵先生（刑事訴訟法）

刑事訴訟法を担当しております、大貝です。私の最も苦手とすることの一つが、まさに、「自己紹介」というものです。なぜなら、自分というものがあるようでいて、実はないからです。学生時代、土井隆義『＜非行少年＞の消滅』にある「個性とは、他者との比較のなかで自らの独自性に気づき、その人間関係のなかで培っていくもの」（信山社 2006）ということを読み衝撃を受けました。なぜなら、当時、自分探し、自分磨きが大流行していたからです。こぞって、自分磨きのために習い事をし、自分探しのために旅に出たりすることがもてはやされていました。しかし、いくら頑張っても磨かれていく実感のない自分を前に途方に暮れていた私は、大変救われた思いを持ちました。

それ以来、私は他者が把握する私というものを積極的に知りたいと思うようになりました。これは、他人との優劣の中でのみ自己を位置づけ評価するというものではありません。他者を通して初めて見える自己を見つめるという作業であり、自他双方の多面性を知ることです。この様に、自身の成長方法を見つけてからは、他人と関ることがとても楽しく、また、楽になりました。「私らしさ」「あなたらしさ」に縛られずに人との関係を結べるようにもなりました。従いまして、強いて自己紹介をするならば、私らしさがないのが私らしいということでしょうか。

これから、私以外の私を今後どれだけ見つけていけるのか、増々楽しみです。金沢大学という場を通じて出会う多くの人との関りを大切にしつつ、ちゃっかりと、自分の成長の糧にさせていただきたいと思っております。

### Report from Overseas

昨年 9 月より米オハイオ州のアクロン大学ロースクールで在外研究中の東川浩二先生から、現地での生活の一コマをお知らせいただきました。

私の娘は現地の公立の小学校に通っているのですが、私が学校の勉強をサポートしてあげなければなりません。自分の研究をしながら、平日は毎日約 1 時間半宿題を手伝ってあげるのは大変なことです。しかし、アメリカの小学校の様子を知るのには、アメリカ法研究としては大事なことなので、ある意味では私も一緒に勉強しています。

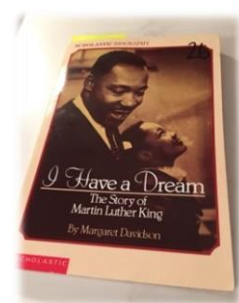
先日は一緒に King 牧師の伝記を読みました。驚いたのは、本が人種差別の問題を正面から取り上げ、日本の小学校 3 年生では、あまりその意味を深く考えることのないような言葉がたくさん出

てきたことです。例えば prejudice や discrimination、さらに segregation や poverty、federal court といった言葉がどんどん出てきます。

ロースクールの教授とこのことについて話しましたが、こちらでは、こうした社会の残酷な側面についても、早い年齢で、正面から取り上げるのが推奨されているようです。そうすることで、人種差別が許されないことだというメッセージが、直接児童の心に伝わるのが期待されているそうです。

小学3年生の時点で、人間の不完全な面に触れさせるというのは、日本ではやや早いのではないかとも思いますが、一方では、人種差別が今もなお深刻な問題であることを物語っているとも言えます。その意味で、このやり方は、非常にアメリカらしいということが言えそうです。

東川 浩二 (法学類教授・外国法)



## 「就活プレイボーイ」

就活とは "Love" である。

これは多くの人が悟ってきたことである。

就活は合コン(説明会)から始まる。幾度となく繰り返される合コンに参加し、好みのタイプあるいは女性(会社)を探す。それが見つかれば、アタックを開始する。

まず、何人かの女性をデートに誘い(ES提出)、OKが貰えれば食事に行くことになる(面接)。勿論、人気の女性(会社)はそう簡単にはいかない。倍率が高いためまずは友達(ライバル)を混ぜた複数人で食事(集団面接)することになる。淑女(入るのが難しい会社)であればあるほど教養が求められるため、食事(面接)やメール(SPI)を通して、こちらがマナーや教養を身につけたジェントルマンであることをアピールしなければならない。

ジェントルマン——そうこれが就活のポイントである。ジェントルマンは気遣いができ、教養があり、ユーモアのセンスがある会話が

できる人間だ。ただし、ジェントルマン=完璧な男でないし、ジェントルマン=都合の良い男ではない。完璧である男(学生)は、女性(会社)から可愛げがないし、伸びしろがないと見なされる。また都合の良い男は、優しさ=都合の良さであると勘違いしており、何でも女性(会社)の言いなりになるとうとする。はっきり言って女性(会社)はそんな男に魅力を感じないし、もしその程度で捕まる女性(会社)なら、それは真の優しさを知らないその程度の女性(会社)で、レディでなくウーマンだ。たとえ結婚(就職)したとしても、尻にしかれるだけである。最後に男は「うちの家内(会社)は鬼嫁(ブラック企業)だ」なんて友人に愚痴るが、そもそもそれは自分が招いた結果であり、かといって離婚(退職)して再婚(転職)する勇気など、そんなちっぽけな男には当然ない。

何度も言う、Be a gentleman. そうすればベッドイン(内定)はすぐそこだ。

法学類4年(株スギノマシンに就職内定) 唐嶋孝明



- 法学類の学生、卒業生、教員に関するイベント等の情報を、ぜひお寄せください。
- 関係者の皆様のご寄稿を歓迎します。採用された方には、法学類グッズを進呈します。
- 本誌のバックナンバーは、金沢大学法学類 Web サイトに掲載していますのでご覧ください。 (<http://law.w3.kanazawa-u.ac.jp//category/brochure/geppo>)  
また、メールでの定期配信(無料)をご希望の方は、金沢大学人間社会系事務部 学生課 法・経済学務係 ([n-hkgaku@adm.kanazawa-u.ac.jp](mailto:n-hkgaku@adm.kanazawa-u.ac.jp))までお申し込みください。
- お読みになってのご意見ご感想は、上記メールアドレスまでお寄せください。